

# 統一地方選に向けて

熊本市議 村上 博

## 止まらない児童虐待

9月議会でも、今期、最後になる一般質問を行いました。

現在、私にとって大きな気がかりは、児童虐待が一向に止まる気配が感じられない事です。3月議会でも質問しましたが、子どもたちの「命と人権」にも関わる事なので、9月議会でも改めて質問しました。

国が統計を取り始めた1990年から30年間に渡り、右肩上がりが増え続けた児童虐待は、全国の虐待対応件数が20万件を突破しました。熊本県・市にとっても同様の傾向が続いています。

国は、虐待を受けた子どもたちを家庭的な環境で養育するため、里親制度に大きく舵を切っています。

ところが、熊本市と熊本県は、69都道府県・政令市別の里親委託率の全国ランキングで、平成30年度と令和元年度に、それぞれ入れ替わり、最下位になりました。全ての子どもが家庭的な環境で育つための支援制度がまだまだ不十分です。

私の高校入学時、「君が、ここ（M高校）に来るのは迷惑だ」と言われ、さらに、「もし、他の生徒が階段の上から故意に突き落とすとしても、責任を求めないなら入学を認める」と、私と両親の面前で言い放った校長の言葉は今でも忘れられません。私も両親も深く傷つきました。

しかし、私が議員となって、辛い思いをされた市民の相談に寄り添えるのは、これまでの体験があるからです。

議員の役割を果たすうえで、これまでの辛い体験の全てが、いまの私の宝物です。

2023年の春に挑戦します!!

皆様の支援を心からお願ひ申し上げます。



ビブレス広場で街頭演説

# 心から歓迎します

## 退職の後

阿蘇地区 後藤 やよ



六十三歳まで働き、二年前に退職しました。重いリュックを下した時のような安堵感です。それまで家族の誰よりも早く家を出ていたのに大逆転。皆を送り出した後にゆっくりと洗濯物を干すと、それだけでもう幸せな気持ちになりました。

これからは、好きなことだけ、やりたいことだけをやるかと秘かに思い、中でも野菜作りは私を満たしてくれます。種を蒔いて芽が出た時の愛おしさ、早朝の

## 組合員で良かった

水俣・芦北地区 津江 親博



四十数年前、初任地の月出小学校は当時県下最大のマンモス校で、組合員数も二十名以上。その中には、作文、音楽、算数などのサークル活動で指導者の立場の方たちがおられ、教研活動に魅せられて、私は組合員に加入しました。

三年再配制度により水俣へ来てからもサークルにめぐりこみ、作文の会や民教連の県大会を地元で開催した時は事務局を務めました。いずれも二百名を超える参加者があり、湯浦温泉や旧水天荘などを貸切りにし

## あこがれの退教協

鹿本地区 中池 充

私がまだ現役の時、かつて組合活動をバリバリされていた先輩方が退教協でもいきいきと活動されている姿を見るたびに、俺もいつかはと思いつけていました。そして3年前に5年間の再任用を終えて、あこがれの退教協の仲間に加えていただきました。

がしかし、この三年間はコロナ禍でほとんどの会合や活動が中止となる有様です。そんななか3年前の鹿本地区退教協総会で加入挨拶して以来2回目の会合が事務局次長としての役員会でした。このところ人と会う機会が少ないため、かつての組合員仲間と話をすることで心休まるひと時となりました。来年こそは総会

# 新加入の方へ

収穫、お隣さんに持って行きつい自慢してしまいます。それから台所に上がり採れたて野菜を切るとききの音も楽しみの一つです。

でも夏場の畑の手入れは、雑草も元気で、汗が止めどなく流れ落ち、まるで修行です。そんな雑草との格闘の最中、ふいに「ちびすけうさぎのカルロス・ロサーノ」を口ずさんでいました。何十年ぶりでしょう。初任地、八代音楽サークルで歌った歌です。懐かしさに浸りながら、太陽と蒸れる草の匂いが私の中の何かを呼び覚ましてくれたのかも知れないと思いました。

まだ始まったばかりの退職後の生活です。出会った人たちが今も繋がってくださる人たちにありがたうの気持ちをいっぱい込めて、太陽に照らされながらくらしを楽しもうと思っています。



ゾウラン

県下の仲間と交流しました。組合員の減少とともにサークル活動は下火となりましたが、当時学んだ草の根スピリットみたいなものは、その後の大切な心の糧となりました。今でも公害サークルだけは片足をつこんでいて、学ばせてもらっています。

労働運動にはあまり熱心でなく、組織のお役に立つことはさほどできませんでしたが、温かく面倒を見て頂き、三十九年間の平教員生活を全うでき、つくづく組合員で良かったと思っています。何よりありがたかったのは、組合活動を通じて伴侶に恵まれ、お互いの仕事の喜びと苦勞を分かちあうことができたことです。

退職後は、水俣市の自宅で「いやし処〜ひゅっげ〜」というお店を開きました。肩こりなどしたときは、遊びに来て下さいね!

を実施して顔突き合わせ、心ゆくまで仲間と語り合えたらと思います。

さて、退職後に加入したのは退教協だけでなくシルバー人材にも加入しました。市役所で宿泊業務を週に2回勤務します。庁舎の鍵と電話番号ですが、夜中はちゃんと寝ています。時々はかつて同働した用務員の先生と組んで草刈りや樹木剪定に汗を流します。1時間ごとに休むようにしていますがこの時の雑談が楽しみで続けられています。

さてさて、健康あつてのことなので無理せずあこがれの退教協生活が続きますように。



# 水俣病

水俣芦北公害研究サークル

## 上村好男さん安らかに

水俣・芦北 梅田 卓治



三十八年前、菊池の西合志南小から水俣の袋小へ異動してすぐに、自宅に電話があつて「公害サークルを毎月第一木曜の夕方六時から教育会館でやっているの、是非おいで。」と声をかけてくださったのは、サークルの事務局長を当時されていた西弘先生でした。

今回は、先月亡くなられた上村好男さんについて、少し紹介したいと思います。

上村さんは、昨年封切りされた映画「ミナタの主人公」であるユージン・スミスさんが撮影して写真集に掲載し、世界中に水俣病患者の存在を知らしめたといわれる上村好男さんの父です。四十五年前に二十一才の若さでこの世を去った娘智子さんを「この子は宝子です。」と言われながら、智子さんの下に生まれた六人の妹や弟たちを含めて7人の子どもたちを育てるために、一日2人分の仕事をされながら、頑張つてこられた方でした。何故「宝子」と言われていたのか（「水俣の赤い海」参照）は紙面の都合上、今回はふれません。が、昨年の夏休みに、鹿児島県教組の依頼で御自身の出身地の鹿児島県伊佐市に、お連れすることがありました。六十年以上経っているにもかかわらず「智子は、私たちの心の支えでした。でも、一度でいいから『お父さん』とよんでほしかった。」と涙される姿を見て、「水俣病は、決して終わっていない。真実を伝えていかねば。」と目指すべき道が明確になりました。

# つぶやきコーナー

熊本 田崎 典夫

今年も残りわずか。アツという年の一年であった。何事にも終りがあれば始まりがある。安倍元首相の終りは劇的であった。在職中から物議をかもし言動。その主張は、単純で独善的。2006年、反対の声をはねのけて、安倍政権は教育基本法の改定を強行した。民主教育の危機だ、国家主義への回帰だとの批判はあつたが、どこがどう変わったのでそんなのかを示す声はあまり聞かえてこなかった。そこで、当時、私は新旧ふたつの案文を徹底的に読みくらべてみた。一読しただけでは、めくじらを立てるようなところはない。争点をボカした実に巧妙な文章。しかし通読したあとに残る不快感…。何度か読みかえす中で、ある相違を発見した。それは、使用されている単語の違いである。「個人」の文字が減り、その分「国、地方公共団体」の文字が多用されている。それは二〇ヶ所以上。これこそ改定の本質であり、それは今でも自民政権の中で脈々と生きついでいる。



センニチコウ